

バングラデシュネトロナ県における気候変動による洪水への地域住民の適応能力とレジリエンス強化

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成

3年目

実践

ガイドライン実践項目
うちの実践数 **18項目**

コミュニティシード
バンクでの保存種 **101種**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **90%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

本事業は、農民の作付け転換を洪水被害軽減策として導入したが、作付け転換への農民の理解を得ること、参加を促すことが最も難しい点であった。

■ 工夫した点

短期間に収穫できる稲や水害に強い稲の品種、冬期作付け品種（野菜）等を試験栽培圃場を通し認知してもらい、これらが洪水被害を低減することを理解してもらった。



フィールド観察会での品種選定

課題

- ①気候変動から頻発・長期化する洪水により稲の収穫量が減少・全滅すること
- ②土壌・河川の生態系が人間の活動によって崩れていること

目標

雨期に地域一帯が浸水する事業地において、小規模農家及び漁師が農業・漁業を持続的にできるよう、洪水への対応策を自ら考え、実施している（農業のレジリエンス強化）。

活動内容と成果

対象農民へ気候変動起因の季節性洪水の長期化や突発的な洪水のメカニズムを学ぶ研修を提供し、事業地に適した農法の導入や水害や冷害に強い品種の導入、植樹活動を通じた環境保全に対する意識構築を図った。これらの活動の結果、農民は栽培する稲や野菜の種・種もみを収穫し、農民間で交換し、次期作付け用に多種多様な品種の種子を保管することができるようになった。今後は新型コロナウイルス禍で活動に制限が生じたものの、休校で時間を余した青少年からなる自助グループが形成され、植樹活動への積極的な参加がみられた（植樹数12,480株）。



農民とのディスカッション

全助成期間の活動を振り返って

事業課題とする“洪水の農作物被害”はすべての農民が打開したい課題であったが、最初は作付け転換に積極的な農民が少なかった。試験栽培圃場で生育された稲・野菜の生育状況をみて、徐々に農民からの理解が得られ、現在では自助グループが10組形成されている（276人所属）。導入したシードバンク（種子保存施設）の利用者も年々増加し、今回は約665世帯が利用し、現在101種の種・種もみが保存されている。



水上での野菜栽培の様子

House#3/1, Flat-5A, Lalmatia, Block-F, Dhaka, 1207,
Bangladesh
電話：+880-2-9132372, +880-1552-389857
E-mail：info@barcik.org.bd
HP：http://www.barcik.org.bd



今後の展望

今次形成された自助グループは、地域住民の巻き込みに取り組んでおり、今後このグループのようにイニシアティブを持って活動する自助グループが作られていくことが期待される。その他、設置したシードバンク、苗木圃場が地域の自然環境に大きな貢献をしていくと考える。また、青少年から植樹活動に関心が集まっていることから、本事業終了後も青少年の巻き込みを力を入れ、次世代に繋がる気候変動に強い地域づくりに貢献したい。